

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月4日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22720244

研究課題名（和文） イタリア史料の収集および整理による中近世移行期日本史像の再検討

研究課題名（英文） Review of the image of Japan in the sixteenth and seventeenth century from perspective of Italian sources

研究代表者

伊川 健二（IGAWA KENJI）

大阪大学・文学研究科・招へい教員

研究者番号：70567859

研究成果の概要（和文）：本研究は、中近世移行期の日本に関する文献史料をイタリア各地において搜索し、ローマ（ヴァチカンを含む）、フィレンツェ、ヴェネツィア、ミラノにおける調査を実施するなかで、従来の関連研究のなかでは確認されていないと思われる文献を含めた一連の史料を確認した。これらの史料情報の多くは、大英図書館における同様の情報とともに、報告書として刊行した。

研究成果の概要（英文）：This project had focused on Italian historical sources concerning Japan in sixteenth and seventeenth century. The documental research had been realized in some libraries, and archives of Rome (including Vatican City), Florence, Venice, and Milan, and some unknown information had been confirmed. In addition to them, the report of the project includes the same kind of data in the British Library in London.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：天正遣欧使節、慶長遣欧使節、大英図書館、the British Library、Biblioteca Medicea Laurenziana、Archivio di Stato di Venezia、Archivio Segreto Vaticano

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究開始以前における先行研究

当該領域には、すでに関連する国文学研究資料館および東京大学史料編纂所の研究者などによる科学研究費補助金報告書のほか、松田毅一、岸野久、高瀬弘一郎各氏などによる南欧史料紹介の文献が出版されているほか、海外においても、ローマのイエズス会歴史研究所のアジア関係史料集（*Documenta Indica*）を中心に多くの文献が公刊されてい

る。

(2) 研究代表者による本研究以前の研究

研究代表者も、本研究に先立ち、イタリアのほか、ポルトガルの諸都市において文献調査を実施しており、その成果の一部を著書『大航海時代の東アジア』などの出版物によって公開している。その過程で、南欧のなかでもポルトガル、スペインと比べて、イタリアにおける関連情報の蓄積が必ずしも充分ではないとの認識に至り、本研究の申請を決

意した。

2. 研究の目的

本研究は、イタリアにおける日本関係史料収集および、収集結果の整理を通じて、同国における織豊期から江戸初期にかけての日本認識がどのようなものであったのかを探る試みであった。本研究以前に実施した調査結果から、当該史料の全体のなかでも、とりわけ天正、慶長両遣欧使節到着の前後で蓄積された日本情報に着目し、その情報収集に重点を置くことにした。

これらの史料の多くは北イタリアの図書館、文書館に所蔵されていることが知られているが、ナポリなど南部に存在する史料を含め、可能な限り包括的に収集、整理することで、これまで限られた情報でしか論じられてこなかった、イタリアにおける日本像に新たな解釈を提供し、当該期の日本史像そのものの再構築をめざした。

3. 研究の方法

本研究は、3年の期間を1年ずつに分割し、1年目を予備調査、2年目を海外調査、3年目を整理および公開を重点的に実施する年度と位置づけた。以下は、その計画の概要である。

(1) 平成22年度

初年度は、国内における関連情報の収集ならびに、海外の関係機関がインターネット上で公開している情報の収集をおこなう。前者については、すでに研究代表者において一定程度の蓄積があるものの、関西地区の機関を中心に進める。

(2) 平成23年度

2年度目は、モデナ、ヴェネツィア、ミラノなどの北イタリア諸都市における1カ月程度の調査を実施する。また、この機会を利用して、ナポリ、ヴェネツィアにおける関係研究者との連携を強化する。

(3) 平成24年度

最終年度は、調査の情報をデータベースおよび報告書などによって公開する。また、収集した史料からわかる当該期の日本像の提示を目指す。また、論文の執筆、学会への出席なども並行することで、情報の発信に努める。

4. 研究成果

本研究計画申請時における、背景、目的、方法の概要は以上のおりであるが、成果の公表は、報告書により、国内外の関係研究者、機関との共有を図った。各年度における成果の概要は以下のとおりである。

(1) 平成22年度

当年度は、本研究の初年度として、準備の年度と位置づけ、その計画のひとつとして、

国内における関係資料の収集をおこなった。

9月のイタリア出張では、フィレンツェにおける調査打合せおよび、ヴェネツィアのマルチャーナ国立図書館における文献調査の試行など、次年度以降の調査の下地づくりを主たる目的とした活動をおこなった。また、ミラノにおいては、天正遣欧使節の関連文献に地名のみえる、ローマ門、ブレア館の踏査をあわせて実施した。

このほか、国際ワークショップ「16~17世紀の東アジア海域：新たな史料と視野から」、メキシコ史研究ワークショップ「メキシコとアジアの接点」（京都ラテンアメリカ研究所主催）などの出席を通じて、関西地区を中心に活動する関係研究者とのネットワーク構築をはかった。

大阪大学における研究環境を整えるべき、主たる備品として、高性能デジタルカメラ（本体）のほか、当該領域の基本文献である『Documenta Indica』を購入した。

(2) 平成23年度

当年度は、海外調査を中心とした情報収集の年度と位置づけた。

10月30日から11月20日にかけてイタリア共和国ローマ市、ヴェネツィア市、ミラノ市、ヴァチカン市国において文献調査をおこなった。調査は天正、慶長両遣欧使節関係古文書を主たる対象としたが、その範囲にとどまらない日本関係史料数点を確認した。最終的な判断は、検討を経る必要があるが、これらのなかには日本未紹介、未邦訳のものが含まれているものと思われる。ヴァチカン市国ウルバニアナ大学図書館においては、関係研究文献の複写をおこなった。また、ヴェネツィアにおける調査の一部は、現地大学関係者との協働において実施した。

このほか、大阪大学が所蔵する国内外で出版された関係文献の情報整理をおこなった。

(3) 平成24年度

当年度は、研究計画の最終年度として、成果の取りまとめならびに公表に重点を置いた活動をおこなった。具体的には、11月におけるイタリア再調査ならびに3月の成果報告書「イタリア史料の収集および整理による中近世移行期日本史像の再検討」の刊行ならびに配布である。

再調査は、前年度における、イタリア調査における欠を補うことを主たる目的として、11月14日から30日にかけて実施した。調査対象機関は前年度とほぼ同様であり、ローマおよびヴェネツィアの諸機関であるが、この機会にはフィレンツェのメディチエ・ラウレンツィアーナ図書館を追加した。国内における関係研究のなかで、同館を調査対象としたのは、本研究が初であろうと認識している。調査対象史料は、具体的には天正遣欧使節関係史料、または地図であり、適宜

慶長遣欧使節に関わるものも確認した。作業の結果、未紹介を思われる関係史料を少なくとも数点確認している。

報告書は、本研究の研究課題名を和文、英文で併記し、ヴァチカン官房文書館 (Archivio Segreto Vaticano)、ウルバニアーナ大学図書館 (Biblioteca, Pontificia Universitas Urbaniana)、イエズス会ローマ文書館 (Archivum Romanum Societatis Iesu)、ヴァッリチェッリアーナ図書館 (Biblioteca Vallicelliana)、ローマ国立公文書館 (Archivio di Stato di Roma)、メディチエア・ラウレンツィアーナ図書館 (Biblioteca Medicea Laurenziana)、マルチャーナ国立図書館 (Biblioteca Nazionale Marciana)、ヴェネツィア国立公文書館 (Archivio di Stato di Venezia) において確認された情報に加えて、ロンドンの大英図書館 (英国図書館、The British Library) における関連史料の情報を加えて作成した。南欧語史料約100点に加え、英文、和文の日本関係情報を極力包括的に掲載した。報告書は、本研究期間中に、調査対象機関のほか、関係する研究者および機関へ送付された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

① IGAWA Kenji, The Encounter between Europe and Japan, *ACTA ASIATICA*, 査読無, vol. 103, (2012), 77-94

② 伊川健二、環シナ海域と中近世の日本、*日本史研究*、査読有、583巻、(2011)、55-75

③ 伊川健二、聖ペドロ・パウティスタと織豊期の日西関係、待兼山論叢 文化動態論篇、査読無、44巻、(2010)、25-46
<http://hdl.handle.net/11094/9077>

④ 伊川健二、ウルバーノ・モンテと天正遣欧使節、*イタリア圖書*、査読無、42巻、(2010)、22-27

[学会発表] (計11件)

① IGAWA Kenji, 日明通交における通交制限と島嶼部交易, THE FIRST ASIA FUTURE CONFERENCE 2013, 2013. 3. 8, CENTARA GRAND AT CENTRAL PLAZA LADPRAO (タイ・バンコク)

② IGAWA Kenji, Islands Trade in the

Chinese Empire: Contradiction of the Maritime Ban System, *Maritime Perspective in Eurasian and Indian Ocean World History: towards a Global History*, 2013. 2. 18, Indian Ocean World Centre, McGill University (カナダ・モントリオール)

③ IGAWA Kenji, The conditions of regional exchanges between Southeast and East Asia in the sixteenth and seventeenth centuries (代読), SECOND CONGRESS OF THE ASIAN ASSOCIATION OF WORLD HISTORIANS, 2012. 4. 9, EWHA CAMPUS COMPLEX, EWHA WOMANS UNIVERSITY (韓国・ソウル)

④ IGAWA Kenji, A TENTATIVE ASSUMPTION ON THE RELATION BETWEEN PIRACY AND TRADE CENTERING ON EARLY MODERN JAPAN, International Workshop "Globalizing Violence, Emerging Modernity: Piracy and Anti-Piracy Campaigns in Eurasia, c. 1600-1900", 2011. 12. 11, 学習院女子大学 (東京都)

⑤ IGAWA Kenji, Islands Trade in the Chinese Empire: Contradiction of the Maritime Ban System, *European Network in Universal and Global History*, 2011. 4. 16, London School of Economics and Political Science, University of London (連合王国)

⑥ 伊川健二、環シナ海域と中近世の日本、*日本史研究会大会*、2010. 10. 9、京都大学 (京都府)

⑦ 伊川健二、16世紀の日本と環シナ海域、*大阪大学歴史教育研究会*、2010. 5. 15、大阪大学 (大阪府)

[図書] (計2件)

① 伊川健二 (坂東省次ほか編)、*れんが書房新社*、*日本・スペイン交流史*、(2010)、56-83

② IGAWA Kenji (Robert J. Antony ed.), Hong Kong University Press, *Elusive Pirates, Pervasive Smugglers, Violence and Clandestine Trade in the Greater China Seas*, (2010), 73-84

[その他]

ホームページ等

<http://space.geocities.jp/igawa5000/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊川 健二 (IGAWA KENJI)
大阪大学・文学研究科・招へい教員
研究者番号：70567859

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし